

日本コミュニティ心理学会

第20回記念大会

パラドックスの中でどう生きるか

会期 2017年7月1日(土)・2日(日)

会場 上智大学 四谷キャンパス2号館

大会長 久田満

大会企画・プログラム

1. 大会長講演

会場 401教室
日時 7月1日(土) 10:00~11:20
テーマ 日本のコミュニティ心理学の過去、現在、未来
講演者 久田 満(上智大学・日本コミュニティ心理学会会長)

2. 基調講演

会場 401教室
日時 7月1日(土) 13:00~14:30
テーマ 道草は必須、脱線はチャンス
—日本で最も自殺が少ない町での4年間のフィールドワークから—
講演者 岡 檀先生(慶應義塾大学)

3. 山本和郎先生追悼シンポジウム

会場 401教室
日時 7月1日(土) 15:00~17:00
テーマ 様々な心理療法に生きるコミュニティ・アプローチ
シンポジスト 森 さち子(慶應義塾大学・精神分析)
福島 哲夫(大妻女子大学・ユング心理学)
津川 秀夫(吉備国際大学・エリクソニアン・アプローチ)
指定討論 黒沢 幸子(目白大学・解決志向アプローチ)
中村 菜々子(兵庫教育大学・認知行動療法)
司会 高橋 美保(東京大学)

4. 大会企画ワークショップ

会場 414教室
日時 7月2日(日) 10:00~12:00
テーマ コンサルテーションの教育のあり方について考える
企画・司会 上田 将史(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院)
話題提供 榊原 佐和子(東北大学 学生相談・特別支援センター)
大林 裕司(一般社団法人 心理支援ネットワーク心 PLUS)
玉澤 知恵美(一般社団法人 心理支援ネットワーク心 PLUS)
大橋 智(明星大学人文学部心理学科)

5. 研究委員会企画シンポジウム

会場 414教室
日時 7月2日(日) 13:10~14:40
テーマ コミュニティ心理学におけるプログラム評価:
理論・実践・研究の方向性
司会・話題提供 安田 節之(法政大学)
話題提供 笹尾 敏明(国際基督教大学)
渡辺 かよ子(愛知淑徳大学)
指定討論 石盛 真徳(追手門学院大学)

6. 自主シンポジウム・ラウンドテーブル・自主ワークショップ

自主シンポジウム1	7月2日(日)	10:00~11:30	会場	402教室
自主シンポジウム2	7月2日(日)	13:10~14:40	会場	408教室
自主ワークショップ	7月2日(日)	13:10~14:40	会場	405教室
自主シンポジウム3	7月2日(日)	14:50~16:20	会場	404教室
ラウンドテーブル	7月2日(日)	14:50~16:20	会場	405教室

7. 口頭発表

日時	7月2日(日)	13:10~14:40	口頭発表A	会場	404教室
			口頭発表B	会場	402教室
			口頭発表C	会場	403教室
		14:50~16:20	口頭発表D	会場	402教室
			口頭発表E	会場	403教室

8. ポスター発表

会場 415教室

日時 7月2日(日) 13:10~14:40 セッションA
14:50~16:20 セッションB

9. 院生の集い

日時 7月1日(土) 11:30~13:00

会場 403教室

院生の方はお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

10. 総会

日時 7月2日(日) 12:00~13:00

会場 414教室

11. 役員会(理事・監事会)

日時 6月30日(金) 18:00~21:00

会場 上智大学6号館6階 心理学科会議室

懇親会のお誘い

日時 7月1日(土) 18:00~20:00

会場 上智大学13号館3階(旧 料亭福田屋)

懇親会費 予約参加: 4,000円

当日参加: 5,000円

※原則予約制です。余裕がある場合のみ当日受付を行います。

日本のコミュニティ心理学の過去、現在、未来

講演者 久田 満 (上智大学)
司会 丹羽 郁夫 (法政大学)

<企画趣旨>

昨年の7月12日に山本和郎先生がお亡くなりになられた。私は先生が慶應に来られた時からのゼミ生、つまりフォーマルな意味での最初の弟子として、修士課程の頃より、永きにわたってご指導を受けるという幸運に恵まれた。山本先生が朋友の安藤延男先生と1975年に立ち上げられた「コミュニティ心理学シンポジウム」にも誘われ、アメリカ留学の年を除いて、毎回参加させて頂いた。「コミュニティ心理学研究刊行会」時代の2年間を経て、1998年に「日本コミュニティ心理学会」が誕生するのであるが、第1回大会は、大会長の山本先生の下で事務局長をやらせて頂いた。それから20年の歳月が流れ、今回は人間でいえば「成人」となる第20回目の大会である。

この講演では、まず、「シンポジウム」の時代から「学会」となった経緯に触れておきたい。次に、「コミュニティ心理学研究」の第1巻第1号～第20巻第2号までに掲載された116本の研究論文の傾向を、総計477個のキーワードを基に分析する。その結果から、日本のコミュニティ心理学研究がどのようなテーマを扱ってきたのかが判るだろう。そして、最後に、日本のコミュニティ心理学および本学会が目指すべき方向性を呈示させていただく。

大会長が講演するというのは本学会の歴史の中でも初めての試みである。無茶を承知で企画させて頂いたが、山本先生、そして本学会とともに歩んできた私のコミュニティ心理学徒としての経験を参加者の皆様と共有し、その先の発展につなげることができれば、これに勝る幸いはない。

【講師略歴】

上智大学文学部心理学科卒業。慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了。同博士課程満期退学。帝京大学医学部公衆衛生学教室助手、東京大学医学部成人保健学教室助手、東京女子医科大学助教授、同教授を経て、2005年4月より上智大学総合人間科学部心理学科教授。上智大学カウンセリングセンター長、総合人間科学部長、学校法人上智学院評議員を歴任。医学博士（東京大学）、臨床心理士。

【日本コミュニティ心理学会での役職】

1998年～発起人・財務担当常任理事

2004年～研修委員長

2006年～編集委員長

2009年～副会長

2012年～会長

道草は必須、脱線はチャンス
ー日本で最も自殺が少ない町での4年間のフィールドワークからー

講演者 岡 檀 (慶應義塾大学)
司会 久田 満 (上智大学)

<企画趣旨>

日本で最も自殺が少ない徳島県旧海部町は、ありふれた海辺の田舎町。この町の一体なにがこれほどまでに自殺の発生を抑えているというのか。どこから手をつけて何を調べたらよいか、当初は途方に暮れる思いでした。

4年にわたりこの町へ通い、“生き心地のよい”コミュニティを形成する5つの要素にたどり着くまでには、多くの寄り道や脱線がありました。振り返って思うのは、それらは調査を進める上での必然であったということです。先入観をとりはらって新たな発見へと向かう、私自身が経験した調査のプロセスを、この稀有なコミュニティの特徴とあわせてご報告させていただきたいと思います。

<講師略歴>

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科博士課程修了。博士論文は、「日本の自殺希少地域における自殺予防因子の研究」。和歌山県立医科大学講師を経て、2017年4月より慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員ならびに健康マネジメント研究科非常勤講師。第1回日本社会精神医学会優秀論文賞受賞。

<主な著書・論文>

・Oka, M. (2014). Social ecology and suicide; Analysis of topographic and climatic characteristics in areas with low suicide incidence, PSYCHOLOGIA.

・岡檀 (2014). 日本の自殺率上昇期における地域格差に関する考察ー1973年~2002年全国市区町村自殺統計を用いてー, 厚生学の指標.

・岡檀 (2013). 生き心地のよい町ーこの自殺率の低さには理由がある, 講談社.

・岡檀 (2012). 「自殺希少地域」徳島県旧海部町における相互扶助組織の特性ー旧海部町の「朋輩組」と他町の類型組織との比較からー, コミュニティ心理学研究, 15(2), 136-148.

・岡檀 (2012). 自殺希少地域のコミュニティ特性から抽出された「自殺予防因子」の検証ー自殺希少地域および自殺多発地域における調査結果の比較からー, 日本社会精神医学会雑誌.

山本和郎先生追悼シンポジウム

1日目 7月1日(日) 15:00~17:00 401教室

様々な心理療法に生きるコミュニティ・アプローチ

シンポジスト	森 さち子 (慶應義塾大学)
	福島 哲夫 (大妻女子大学)
	津川 秀夫 (吉備国際大学)
指定討論	黒沢 幸子 (目白大学)
	中村 菜々子 (兵庫教育大学)
司会	高橋 美保 (東京大学)

<企画趣旨>

昨年7月、日本のコミュニティ心理学の導入と発展の立役者の一人である山本和郎先生が逝去された。山本先生はコミュニティ心理学を中心に教鞭を取られてはいたが、ゼミ生たちにはそれにこだわることなく自由に学ぶことを推奨された。その結果、現在、先生のゼミを巣立った多くの卒業生たちは様々な療法やアプローチを用いて様々な領域で活躍している。

そこで本シンポジウムでは、中堅ないしベテランとして指導的立場にある3名の臨床家に登壇いただき、それぞれの実践の中にコミュニティ・アプローチがどのように生かされているのかについて、山本先生を偲びつつ語っていただく。さらに、山本先生とは直接かかわりのなかった2名の指定討論者からも別の角度でコメントを頂戴し、今後のコミュニティ心理学のあるべき方向について討論したい。

大会企画ワークショップ

2日目 7月2日(日) 10:00~12:00 414教室

コンサルテーションの教育のあり方について考える

企画・司会	上田 将史 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院)
話題提供	榊原 佐和子 (東北大学 学生相談・特別支援センター)
	大林 裕司 (一般社団法人 心理支援ネットワーク心 PLUS)
	玉澤 知恵美 (一般社団法人 心理支援ネットワーク心 PLUS)
	大橋 智 (明星大学人文学部心理学科)

<企画趣旨>

近年、様々な心理支援の領域で、コンサルテーションの名称が用いられるようになってきているが、概念や手続きの理解、実践の仕方にはかなりのばらつきが見受けられる。

本ワークショップでは、どの領域にも共通する実践上のスタンダードとなる手続きをデモンストレーションも交えて提示するとともに、会員に対するアンケートをもとに、コンサルテーションの運用上の困難と、教育課題について検討する。

コミュニティ心理学におけるプログラム評価
理論・実践・研究の方向性

司会・話題提供	安田節之 (法政大学)
話題提供	笹尾敏明 (国際基督教大学)
話題提供	渡辺かよ子 (愛知淑徳大学)
指定討論	石盛真徳 (追手門学院大学)

<企画趣旨>

対人援助やコミュニティ援助を目的としたプログラム(実践・介入活動)の評価の必要性やあり方が問われるようになって久しい。このようななか、プログラム評価(program evaluation)は学術的な発展を遂げ、コミュニティ心理学はそのパイオニアとしての役割を継続的に果たしてきた。その一因として、エンパワーメントやウェルビーイングといった考え方から、予防や生態学的視座、ソーシャルチェンジといった介入モデルに至るまで、コミュニティ心理学が依拠する価値基盤が、組織・コミュニティへの介入および評価と親和性が高かったことが挙げられる。さらに心理学研究法は、相関分析であれ実験・準実験デザインであれ、プログラムの効果測定や評価に適していたため、その専門性が、プログラム評価の発展に不可欠であったとも考えられる。

本シンポジウムでは、コミュニティ心理学における研究・実践活動のよき“パートナー”と言えるプログラム評価の現状と今後のあり方を検討する。そこでまず、プログラム評価が特に心理学領域で発展した学術的・社会的背景を検討し、コミュニティ心理学が依拠する理論やアプローチがどのように貢献してきたかを考える(安田)。そして、エビデンスに基づく実践が黄金律(gold standard)とは限らないコミュニティ心理学の立場を、エンパワーメント評価などの具体例を参考に検討したうえで、コミュニティ心理学がプログラム評価の実践・研究に対して提示してきた(している)挑戦的課題について議論する(笹尾)。さらに、長期にわたり評価研究が行われているメンタリング・プログラムを実践例として、量的・質的アプローチに基づいたプログラム評価の実際について検討する(渡辺)。指定討論(石盛)では、今後もコミュニティ心理学のよきパートナーとなり続けるためのプログラム評価の実践・研究・教育の在り方を議論する。

自主シンポジウム 1

2日目 7月2日(日) 10:00~11:30 402教室

地域コミュニティを支える『認知症デイケア』の構想について —建築学と臨床心理学(大学)、脳科学が協働する地域づくりのコンセプト—

司会・コーディネーター・シンポジスト

竹森元彦 香川大学教育学部

シンポジスト 松村正希 獏設計同人

塩田 翔一 広島大学大学院

<企画趣旨>

認知症の高齢者は今後増加の一途をたどる。認知症高齢者を含めたどのようなコミュニティづくりを行うのか、認知症高齢者を医療や福祉施設が抱え込むこととは異なった発想が求められている。高齢になっても自分が生活したい地域とはどのような仕組みをもっているのか。本発表は、本年8月K県にある高齢者施設の認知症デイケアを設立するにあたり、コミュニティを支える「認知症デイケア」という見取り図を示しながら、その核となる建物をデザインする1級建築士をお迎えした。デイケアの中心にキッチンを設置して「食」を重視し、あわせて地域に開かれている空間をもつので、地域を取り込みながら動くデザインを示してもらった。地域の大学の学生、貧困や児童虐待、不登校などの地域の課題、地域住民を巻き込みながら、認知症デイケアがコミュニティを支える役割をもつような構想について意見を交わしたい。認知症特有の認知障害と環境構造による支援の観点から脳科学の専門家もシンポジストとして招き協働の端を発したい。

児童福祉分野における非行児への対応
—地域への復帰を目指す施設処遇とは—

司会・話題提供	三枝 将史	埼玉県越谷児童相談所
話題提供	小柳 紘介	国立きぬがわ学院
	相澤 林太郎	国立武蔵野学院
	田口 謙作	千葉県君津児童相談所
指定討論	箕口 雅博	立教大学名誉教授

<企画趣旨>

児童福祉分野において、児童虐待の対応が注目を浴びて久しい。一方で、現場では触法行為等、様々な問題行動のある児童の対応も求められている。児童福祉分野の実践は対象に支援をすることが基本であるが、問題行動のある児童の対応について、社会から成人の犯罪者と同様に矯正や教育といった視点で関わることを期待されることが多く、児童相談所をはじめとした対応に当たる機関が苦慮しているケースが多い。

本シンポジウムでは問題行動のある児童が入所する児童福祉施設である児童自立支援施設と広く児童の問題にかかわる児童相談所の職員から問題行動のある児童が施設入所中から地域に戻るまでのかかわりについて、実践報告を行う。それを基に、フロアでのディスカッションも含め、児童福祉分野における問題行動のある児童への対応はいかにあるべきか、検討したい。

援助要請研究とコミュニティ心理学
～援助要請を考慮した援助を考える～

司会・話題提供	水野治久	大阪教育大学
話題提供	永井智	立正大学
	本田真大	北海道教育大学
	飯田敏晴	山梨英和大学
	木村真人	大阪国際大学
指定討論	久田満	上智大学

<企画趣旨>

援助要請研究は2000年頃から我が国でも活発化し、援助要請の意図や態度について主に質問紙により測定することが試みられてきた。そして、大まかに言えばニーズのある人が専門家に援助を要請することは簡単ではない。教育機関や医療機関、行政機関にとって、援助が必要な人をどのように支援につなげるのか、検討すべき時期に来ている。メンタルヘルスの専門家にどのようにアクセスするかは、コンサルテーションでも重要な問題である(Caplan & Caplan, 1993)。日本の援助要請研究は、欧米や豪州の研究成果の検証から、日本の研究や実践の発信の時期に来ているとも言える。そこでこのシンポジウムでは学校、大学、行政、医療などのコミュニティでどのような支援が可能なのかを考えていきたい。そして、援助要請研究をコミュニティ心理学の中にどのように位置づけ議論をしていけば良いのか、また、援助要請の視点を持つカウンセリングはどのようなものであるかについても検討したい。

強くあたたかいNPO 団体のつくり方 ー研究と実践の融合を目指してー

企画・司会	久田 満	上智大学
話題提供	吉永真理	昭和薬科大学
	萩原豪人	人間科学大学
	金杉泰子	NPO 法人 MLT こどもプロジェクト
指定討論者	呉 哲煥	NPO 法人 CR ファクトリー

<企画趣旨>

1998年にいわゆる「NPO法」が施行され、日本で活動するNPO団体が急増した。2016年11月末現在、51,356団体が認証・認定されているが、その数は10年前の2倍以上である。その活躍が大いに期待されるNPO団体ではあるが、解散や開店休業状態に追い込まれるものも多く、毎年1,000団体以上が解散しているという現状がある。

それでは、一旦結成されたNPO団体が長期にわたり継続的に活動し発展していくためには何が必要なのであろうか。どうすれば強くあたたかいNPO団体に育てていけるのであろうか。

このワークショップでは、NPO団体に対するメンバーのコミュニティ感覚をキーワードに、NOP団体の活動に深く携わっている話題提供者からの経験や理念を共有し、継続的に発展し続けていくための方略を考えてみたい。加えて、NPO団体のメンバーを対象とした調査研究の成果も披露し、研究と実践の融合の在り方についても討論していきたい。

多文化化するコミュニティにおける心理援助
—母語以外で心理援助を行うこと

司会・話題提供

大西 晶子 東京大学国際センター

話題提供

安 婷婷 東京大学理学系研究科・理学部学生支援室

<企画趣旨>

グローバル化を背景に国内の対人援助サービスにおいても、多様な文化的・言語的ニーズにいかに対応していくかが課題となっている。日本の大学で学ぶ留学生や、海外生活経験を有していたり実践の場で文化的背景の異なる人々と出会う経験をしたりする専門家も多く、多文化カウンセリングへの関心は一定程度高まっているものと思われる。しかしながら現状では社会的ニーズに十分対応出来ているとは言い難い。多文化カウンセリングの質的量的拡充において、利用者と母語を共有する専門家の育成は重要であるが、同時に専門家が自身の母語以外で心理援助をいかに担っていくかも課題である。本企画は、母語以外で援助者となる訓練を受ける留学生、母語以外の言語での心理援助実践に携わる専門家、そうした実践に関心のある方々にお集まりいただき、母語以外で行う心理援助の課題を検討する場としたい。

<口頭発表>

口頭発表 A 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 404教室

座長：調整中

OA-1 若年勤労者の自律性とワークモチベーション発展プロセス

飯塚 明雄 よこはま若者サポートステーション
久田 満 上智大学

OA-2 大学生の精神健康に及ぼす ASD 傾向と愛着スタイルおよびコーピング

岩渕 彩加 伊勢原市教育センター
小野 純平 法政大学
久田 満 上智大学

OA-3 公的機関における復職者の組織内復職支援体制に対する要望について

隅谷 理子 キューブ・インテグレーション株式会社
 統合的心理療法研究所

OA-4 援助要請への介入に関する理論的検討(3)

—援助要請への介入研究を包括する理論的枠組みの提案—

本田 真大 北海道教育大学函館校
水野 治久 大阪教育大学

口頭発表 B 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 402教室

座長：調整中

OB-1 ひきこもり状態にある人の家族による社会変革の可能性

—KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の支部設置過程に基づく分析—

境 泉洋 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

OB-2 ひきこもり状態にある人に対する家族の対応行動の特徴

野中 俊介 早稲田大学大学院人間科学研究科
嶋田 洋徳 早稲田大学人間科学学術院
境 泉洋 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

OB-3 小学生における集団宿泊活動の心理的効果

山田 文 上智大学
久田 満 上智大学

OB-4 専門家チームとして実施する学校巡回相談の機能に関する検討

澤 聡一 北翔大学

口頭発表 C 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 403教室

座長：調整中

OC-1 支援者・親教育者養成のためのファシリテーション演習

柴田 崇浩 浦和大学

OC-2 元非行の当事者が支援者になるプロセスに関する質的研究

～複線径路等至性アプローチを用いて～

千賀 則史 名古屋大学

OC-3 指導教員の強い叱責が特徴の研究室における well-being の調査 (1)

探索的な調査の結果

加々美智光 金沢工業大学
塩谷 亨 金沢工業大学

OC-4 「市民カウンセラー講座」の受講による受講者の well-being の変化

—年代別の分析—

山上 史野 金沢工業大学心理科学研究所
塩谷 亨 金沢工業大学心理科学研究所
松本 圭 金沢工業大学心理科学研究所

口頭発表 D 2日目 7月2日(日) 14:50~16:20 402教室

座長：調整中

OD-1 福島県の復興公営住宅でのコミュニティ形成支援

～住民自治会，現地中間支援組織，大学との連携～

熊上 崇 立教大学

OD-2 コミュニティワークによる情報整理について

-被災地見守り活動のネットワーク強化と情報共有シート

川野 健治 立命館大学
白神 敬介 上越教育大学

OD-3 東日本大震災における臨床心理学的地域援助報告 (1)

～被災地における心理尺度利用について～

佐々木誠 岩手大学

OD-4 地域と店舗の連携による防犯対策の検討

—安全・安心まちづくり推進店舗の認定と評価—

大久保智生 香川大学教育学部

- OE-1 学生相談における危機レベルと精神的健康度との関連について
—項目反応理論とコミュニティ心理学から—
酒井 渉 秋田大学学生支援総合センター
野口 裕之 名古屋大学
- OE-2 スポーツにおけるコミュニティ感覚尺度日本語版の作成の試み
—大学生アスリートを対象にした検討—
八田 直紀 国際基督教大学大学院
笹尾 敏明 国際基督教大学
- OE-3 子育て世代の援助希求力向上に向けた
「つなぐ、つなげる、おたすけゲーム」の開発と活用の広がり
吉永 真理 昭和薬科大学
- OE-4 大学生の就職活動時における心理的プロセス
平林 幸 久喜すずのき病院
久田 満 上智大学

<ポスター発表>

ポスター発表 A 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 415教室
在席責任時間: PA-1~5 13:10~13:55 PA-6~10 13:55~14:40

- PA-1 環境志向性と利用動機がサードプレイス利用時の感情状態に与える影響
岡本 卓也 信州大学人文学部
- PA-2 沖縄の文化・伝統の実践における地域間・世代間比較
加藤 潤三 琉球大学法文学部
前村 奈央佳 神戸市外国語大学
- PA-3 多職種連携教育における「模擬ケース会議」の可能性
—保育士養成課程における専門性理解—
荊木 まき子 就実短期大学
鈴木 薫 就実大学
- PA-4 中学校教師が学校コンサルトから受けたサポートに関する検討
—道具的サポートと情緒的サポートの比較を通して—
谷島 弘仁 文教大学
- PA-5 地域コミュニティにおける横断的ネットワークの実践
—社会福祉法人の公益的取組との協働—
谷渕 真也 比治山大学
吉田 弘司 比治山大学
藤井 あゆみ 島根あさひ社会復帰促進センター
桐原 成美 比治山大学
- PA-6 断酒会会長を対象としたセルフヘルプ・グループのマネジメント
—変化への対応に生じる問題の検討—
三好 真人 目白大学
- PA-7 発達障害のある成人の自己理解に関する実践研究
—他者との相互作用の視点からの考察—
満田 琴美 お茶の水女子大学大学院
栗田 房子 筑波大学 心理・発達教育相談室
小菅 英恵 筑波大学 心理・発達教育相談室
熊谷 恵子 筑波大学

PA-8 被災地における中・長期的なメンタルヘルス支援

—地域の支援者との関係構築を焦点に—

高橋 紀子	福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
野村 昂樹	福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
中村 志寿佳	福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
川島 慶子	福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室
佐藤 則行	福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室

PA-9 育児ストレス予防プログラム開発の試み（3）

—心理的柔軟性に焦点をあてて—

藤川 麗	駒沢女子大学
石津 和子	駒沢女子大学

PA-10 大学生のうつ病に対するメンタルヘルスリテラシーと援助要請の関連：

自身の援助要請意図および援助要請を勧める意図に関する検討

永井 智	立正大学
------	------

PA-11 中国人留学生の援助要請行動の特徴及び意思決定のプロセスの関連要因

AN TINGTING	東京大学理学系研究科学生支援室
-------------	-----------------

永井 智	立正大学
------	------

PA-12 対人援助職を対象とした EAP 活動の展開 —児童福祉施設での実践報告—

玉澤 知恵美	一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS
--------	------------------------

大林 裕司	一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS
-------	------------------------

PA-13 学校コミュニティにおけるスクールカウンセラーの役割の検討

—勤務日数の違いに対する援助要請意図の比較から—

安田 みどり	立教大学
--------	------

ポスター発表 B 2日目 7月2日(日) 14:50~16:20 415教室

在席責任時間：PB-1~6 14:50~15:35 PB-7~13 15:35~16:20

PB-1 NPO 団体の活動者におけるコミュニティ感覚とワーク・エンゲイジメント

池辺 百花 株式会社パソナ
久田 満 上智大学

PB-2 台湾人留学生のレジリエンスが日常生活ストレスと

災害不安による非日常的なストレスに及ぼす影響

山口 明子 東京大学東洋文化研究所図書室

PB-3 日本人社員は外国人社員の存在をどのように認識しているか

—多文化就労場面における面接調査から—

田中 詩子 お茶の水女子大学大学院
山中 弘子 お茶の水女子大学 国際教育センター
加賀美常美代 お茶の水女子大学 基幹研究院

PB-4 「リーダーとしての自信」向上を目指した教育プログラムにおける

役職負担感の高群と低群の体験の様相

横山 孝行 東京工芸大学

PB-5 大学生が住民ボランティア活動を行うきっかけと認知している期待

大平 有記 法政大学大学院人文科学研究科心理学専攻修士課程

PB-6 セルフ・モニタリングと自己理解が否定的意識に及ぼす影響

—対人関係における違和感を抱いた状況に着目して—

丸山 華子 昭和女子大学大学院
田中 奈緒子 昭和女子大学

PB-7 女子大学生における相談時の友人の反応および援助評価と相談意図

～進路に関する悩みの場合～

城田 夏穂 上智大学大学院
久田 満 上智大学

PB-8 発達障害を持ち大学不適應となった学生のUPIの特徴に関する一考察

～早期スクリーニングの可能性に着目して～

谷津 修一 流通経済大学
小林 美寿々 流通経済大学 学生相談室
高瀬 章江 流通経済大学 学生相談室
谷越 慧 流通経済大学 学生相談室

PB-9 大学生のうつ病に対するファーストエイドの実態調査

河合 輝久 東京大学学生相談ネットワーク本部ピアサポートルーム

PB-10 うつ病の回復過程における居住空間の役割の検討

大江 舞 明治大学大学院

PB-11 最小条件集団における双方向依存性と報酬の重要度が内集団ひいきに及ぼす影響

岡本 大輝 比治山大学大学院 現代文化研究科 臨床心理学専攻

塚脇 涼太 比治山大学

谷渕 真也 比治山大学

PB-12 中学生の相談行動に関する実証的研究

- より効果的な自殺予防教育の実施に向けて -

杉岡 正典 名古屋大学学生相談総合センター

窪田 由紀 名古屋大学

<自主シンポジウム・ラウンドテーブル・自主ワークショップ>

自主シンポジウム1 2日目 7月2日(日) 10:00~11:30 402教室

地域コミュニティを支える『認知症デイケア』の構想について

ー建築学と臨床心理学(大学)、脳科学が協働する地域づくりのコンセプトー

司会・コーディネーター・シンポジスト

竹森 元彦 香川大学教育学部

シンポジスト

松村 正希 獏設計同人

塩田 翔一 広島大学大学院

自主シンポジウム2 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 408教室

児童福祉分野における非行児への対応 ー地域への復帰を目指す施設処遇とはー

司会・話題提供

三枝 将史 埼玉県越谷児童相談所

話題提供

小柳 紘介 国立きぬがわ学院

相澤 林太郎 国立武蔵野学院

田口 謙作 千葉県君津児童相談所

指定討論

箕口 雅博 立教大学

自主ワークショップ 2日目 7月2日(日) 13:10~14:40 405教室

強くあたたかいNPO団体のつくり方ー研究と実践の融合を目指して

企画・司会

久田 満 上智大学

話題提供

吉永 真理 昭和薬科大学

萩原 豪人 人間科学大学

金杉 泰子 NPO法人MLT こどもプロジェクト

指定討論者

呉 哲煥 NPO法人CRファクトリー

自主シンポジウム3 2日目 7月2日(日) 14:50~16:20 404教室

援助要請研究とコミュニティ心理学～援助要請を考慮した援助を考える

司会・話題提供

水野 治久 大阪教育大学

話題提供

永井 智 立正大学

本田 真大 北海道教育大学

飯田 敏晴 山梨英和大学

木村 真人 大阪国際大学

指定討論

久田 満 上智大学

ラウンドテーブル 1日目 6月25日(土) 14:50~16:20 405教室

多文化化するコミュニティにおける心理援助—母語以外で心理援助を行うこと

司会・話題提供者

大西 晶子 東京大学国際センター

話題提供

安 婷婷 東京大学理学系研究科・理学部学生支援室